

演題13

1才、2才児へのブラッシング
指導について

○中田寛美・金澤徳子・豊村輪子・品川知通子・
品川光春
(佐世保市・しながわ小児歯科医院)

低年令児の歯科疾患での問題は、やはりう蝕である。ではこのう蝕を予防するためにはどうすればいいのかを考えてみると、生後の規則正しい食生活とともに、フッ化物の応用、あるいは乳臼歯咬合面のシーラントの充填など、多面的に予防処置を施さなければならない。また胎生期からのバランスのとれた栄養補給にも考慮する必要があるが、基本的に大切なのはブラッシングだと考えられる。歯に付着した歯垢を疾病予防のレベルまで除去することは簡単なようで意外と難しいものである。もちろん隣接面はブラッシングだけでは不十分で、デンタルフロスの併用も必要なことはいまでもないが、将来の歯周疾患の予防のためにも、低年令児からの正しいブラッシングの習慣づけは大変重要である。ところが、実際に取り組んでみると、ブラッシング指導は容易ではないのが実状である。

そこで今回、低年令児の中で特にブラッシング指導が困難な1才、2才児について、昭和62年1月より4月までに当院に初診あるいは定診で来院した男児56名、女児44名の計100名について、患児の親にブラッシングに関するアンケート調査を実施し、母親がブラッシングをしようとしても非協力的のためさせない患児のうち、希望した男児9名、女児2名に対して特別指導を実施した。その方法は、第1回目は患児を抑制帯で固定して歯垢を染色し、チャートに記入ののち母親に歯垢の残っている部位を確認させた上で、ブラッシングの方法を指導し、その内容を記録した。2回目以降は染色はせず、じゅうたんの上で主として固定法など実際に行う場合の問題点を解決できるよう具体的に指導し、その内容を記録した。

以上、1才、2才児へのブラッシング指導について検討を行ったのでその結果について報告する。

演題14

母親教室の役割について
— 一定期診査時における調査 —

○西本美恵子
(福岡市・にしもと小児歯科医院)

健康な永久歯列育成のために、よりよい小児歯科治療を継続して行なうには、歯科医院だけでなく、保護者の理解、家庭での協力も必要である。当院では、この目的のために、初診→母親教室→治療→定期診査というシステムをとって口腔管理を行なっている。

特に、母親教室は、保護者に、永久歯列育成のためには予防、管理が大切であること、本人だけでなくまわりの協力も必要であること、などを理解し、実行してもらおう目的で行なっている。

今回は母親教室に参加した人の意識変化を調べるため、母親教室に参加した群と、母親教室に参加しなかった群に分けて、治療、定期診査受診状況などの調査を行なったので報告する。

調査は初診時の診査表、処置記録、及び定期診査用紙の記録に基づき、分析、検討を行なった。